

大聖院：遍照窟

遍照窟とは「広大な光の場所」という意味で、大師堂の真下に存在する地下室です。ここでの「広大な光」とは仏陀の輝きを言い表したもので、これに導かれて仏を信仰する全ての人々が世俗的な人生の暗闇を切り抜け、救いに至ることができると考えられています。奉納者の名前が刻まれた数百個の銅製ランタンが天井から吊るされ、部屋全体がそこから発せられる淡い光に包まれています。

遍照窟の主な特徴は室内の壁を覆い尽くす 88 体の像で、これらは四国遍路（四国の聖地を巡礼する旅）で巡る八十八箇所の寺院の本尊を意味しています。四国遍路は全長 1,200 キロメートルの旅で、踏破に数か月を要する場合があります。すべての寺院を見て回るできない人は、ここで 88 ヶ所を巡礼するかのような体験ができます。各仏像の前にある四角いタイルの下には、その仏が祀られている寺院から持ってきた一袋の砂が収められています。この砂はその寺の境内を意味し、これを踏むと実際の場所に参拝した人と同様の仏様の恩恵を受けることができます。この部屋の中央にはやや大きな仏像が 2 列並んでいます。（入り口から見て）左側の列は十二支の動物を表しており、一方で右側の 13 体は伝統的な仏式の葬式に関連する仏を表現しています。これら全ての像を部屋の一番奥にある 2 体の阿弥陀如来像が見守っています。